

ア 消費者や流通の変化を的確に捉えた農畜産物の生産振興

① 土地利用型作物（米・麦・大豆・そば）

■ 米

担い手への水田の利用集積等による規模拡大と低コスト生産を進めるとともに、環境にやさしい米づくりや、県オリジナル品種の普及等による食味の優れた高品質な米の生産を推進します。

米の計画的生産を基本に、新規需要米の需要拡大等により水田農業の持続的な発展をめざします。

■ 麦・大豆・そば

加工適性の高い県オリジナル品種を活用した販売競争力の強化により、農家経営の安定化を進めるとともに、生産性及び品質の向上、安定した生産量の確保等により、実需者から期待される生産物を安定して供給できる産地の育成をめざします。

【達成指標】

項目		平成22年度	平成29年度 (目標)	設定の考え方
環境にやさしい米づくりの面積		1,226ha	1,887ha	信州の環境にやさしい農産物認証米、原産地呼称管理制度認定米の作付面積を現状の1.5倍に拡大する
実需者ニーズの高い県オリジナル品種の普及面積	米	0ha	1,260ha	「キヌヒカリ」と「コシヒカリ」の一部を「風さやか」に転換する
	麦	311ha	950ha	加工適性の高い品種を現状の3倍にする 小麦：「ゆめかおり」、「ハナマンテン」 大豆：「すずほまれ」「すずるまん」 そば：「長野S8号」
	大豆 そば			

【目指す5年後の姿】

- ◆担い手が水田の利用を集積し、品質の高い米を生産するとともに、米粉用米、飼料用稲、麦、大豆、そば等の戦略作物を導入しつつ効率的な経営を行っています。
- ◆水稲では県オリジナル品種や環境にやさしい栽培方法の導入等が進み、食味・品質に優れ特徴のある米が、多くの実需者や消費者から高く評価されています。
- ◆麦・大豆・そばでは、加工適性の高い品種の導入が進み、実需者から更なる生産拡大が求められています。

【展開する施策】

● 経営の規模拡大と安定化支援

- 米の計画的な生産を基本に、経営所得安定対策等を活用しつつ、人・農地プランに位置づけられた担い手への農地の利用集積等による規模拡大を推進するとともに、生産性向上に必要な機械・施設等の整備を支援します。
- 主食用米の消費量が減少するなかで、本県の水田農業経営を安定的に維持・発展させていくため、低コスト生産が可能な水稲作付面積5ha以上の担い手経営体の増加を図ります。
- 既存品種との作期分散が可能で価格競争力が高い「風さやか」を積極的に活用し、稲作経営体の経営力強化を図ります。
- 疎植栽培、直播栽培など低コスト栽培技術の普及や、共同利用施設の利用拡大などに加え、ICTの活用等により水田経営における効率的な作業体系の確立や適正な労務管理等を進め、

徹底した低コスト化と収益性の向上を図ります。

- 中山間地域等の条件不利地域については、集落営農の推進や付加価値の高い米づくり、地域に適した園芸作物などの導入を推進します。

● **消費者に選ばれる特徴ある高品質米の生産**

- 化学合成農薬の使用回数、化学肥料使用量の低減を図りつつ、信州の環境にやさしい農産物認証制度、エコファーマー認定制度の活用を促進し、環境にやさしい米づくりを進めます。
- 原産地呼称管理制度認定米など特徴のある高付加価値米や特色のある米生産への誘導を進めます。
- 生産履歴の記帳やGAPの実践等による安全・安心な米づくりを推進します。
- 中晩生品種「キヌヒカリ」から、食味や品質が高い県オリジナル品種「風さやか」への転換を図ります。
- 土づくりを基本とし、適正な水管理や施肥等による水稻の生育中の活力維持、適期収穫の徹底等により、食味の優れた高品質米生産を推進します。
- 食料自給率の向上と米の需給調整を推進するため、米粉など新規需要の拡大により、多様な米づくりを進めます。

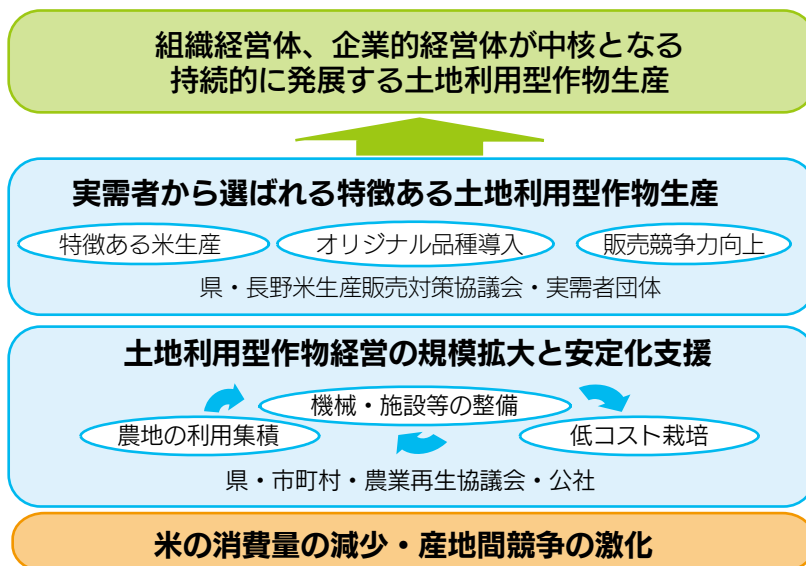
● **実需者ニーズに対応した麦・大豆・そばの生産拡大**

- パン・中華麺用需要に対応した小麦「ゆめかおり」、「ハナマンテン」の導入を推進し、大豆では「タチナガハ」から豆腐加工適性の高い「すずほまれ」への転換と納豆加工適性の高い「すずろまん」の普及を図ります。
- 実需者から期待されるそばの県育成新品種「長野S8号」について、産地を特定しつつ導入を進めるとともに、県産玄そばのブランド力の強化により生産拡大を推進します。
- 安定した品質や収量を確保するため、土づくりや排水対策の徹底、栽培技術の改善などを推進します。
- 実需者等との契約栽培等による安定的な取引の拡大を促進します。

● **優良種子の安定供給**

- 長野県原種センターと連携し、優良種子の安定した生産と供給を確保します。また、実需者等と連携した優良品種の選定を進めます。

【土地利用型作物生産の持続的発展】



② 園芸作物・水産

■ 果 樹

多くの種類の「うまいくだもの」を生産する産地として、品質の向上、出荷の長期化等により、実需者に信頼される産地づくりと農業者の経営の安定化に取り組みます。

おいしさや食べやすさなど多様な消費者ニーズに応え、商品性が高い県オリジナル品種を中心に優良品種のシリーズ化やバラエティー化を進め、特色ある果樹産地への再構築を図ります。

収益性が高く省力的な栽培方法の導入と、新しい栽培方法について検討を進めるとともに、流動化が進みにくい樹園地の、担い手への集積や継承の仕組みづくりを進めます。

【達成指標】

項 目	平成 22 年度	平成 29 年度 (目標)	設定の考え方
果樹オリジナル主要品種等の栽培面積	1,190ha	2,320ha	市場評価の高いオリジナル品種6品種（シナノスイート、シナノゴールド、秋映、ナガノパープル、シャインマスカット、サザンスイート）の栽培面積を現状の2倍に拡大する
りんご新わい化栽培面積	67ha ※ H23	500ha	収益性が高く省力的な栽培方法の導入を大幅に拡大する

【目指す5年後の姿】

- ◆果樹農業者は、県オリジナル品種の導入やりんご新わい化栽培などに積極的に取り組み、高い収益性と省力的な栽培により安定した経営を営んでいます。
- ◆産地では、市場が求める安定した生産量と高い品質が確保され、その信頼は一層高まっています。また、高齢化等により栽培規模の縮小やリタイアする農業者の樹園地は、地域の樹園地流動化への取組により、新たな果樹農業者に引き継がれ有効に活用されています。
- ◆樹園地の団地化や効率的な栽培方法の導入が進んだ果樹産地では、生産性が高まるとともに、美しい農村景観を創出しています。

【展開する施策】

● 県オリジナル品種等による特色ある果樹産地の再構築

- 標高や出荷時期を踏まえ、計画的・戦略的にオリジナル品種等優良品種の導入を図ります。
- りんごは、「シナノスイート」「シナノゴールド」「秋映」、ぶどうは「ナガノパープル」「シャインマスカット」を中心に導入を支援します。
- なしは、大規模実証ほ等の活用により「サザンスイート」の早期産地化を支援します。
- ももは、高糖度品種のシリーズ化に向けた検討を進めます。
- プルーンなどの特産果樹は、地域の多様な条件を活かせる品種の導入を支援します。



【なし新品種 サザンスイート】

● 収益性が高く省力的な果樹栽培の推進

- 省力化と品質向上を同時に実現できるりんご新しい化栽培、ぶどう平行整枝短梢せん定栽培について、適地適作を踏まえ積極的に導入を進めます。
- りんご新しい化栽培用フェザー苗の安定した品質の確保と生産量拡大への取組を支援します。
- なし栽培での省力化と高品質化を実現するナシ樹体ジョイント栽培の普及に向けた検討、技術開発と専用苗生産供給体制づくりを進めます。
- ももは、疎植低樹高仕立て栽培の検討を進めます。



【フェザー苗育苗技術向上指導会】

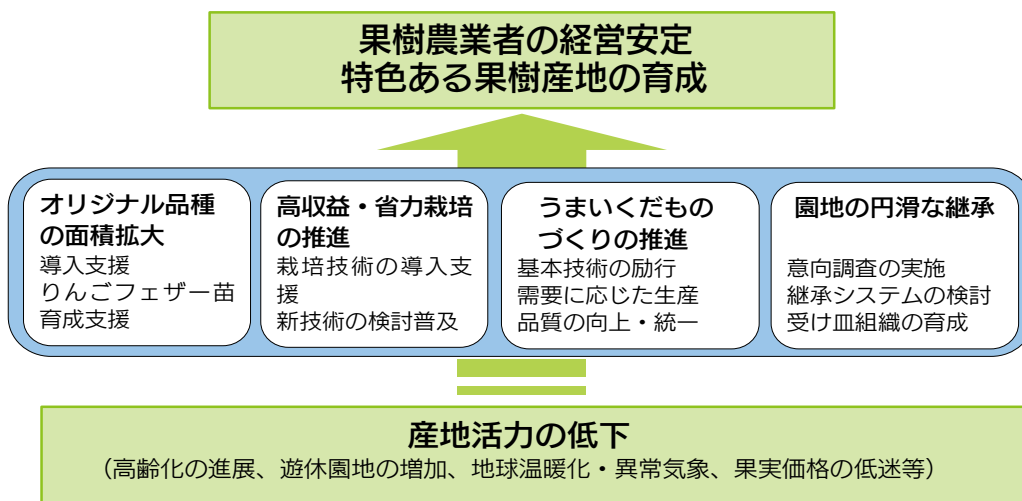
● うまいくだものを安定生産できる産地づくり

- 「ふじ」や「巨峰」などの基幹品種を中心として、有機物等の施用による土づくりや基本技術の励行により高品質で高単収の生産を進めます。
- 「シナノスイート」は、需要に応じた産地のリレー出荷を促進します。
- 「シナノゴールド」は、適熟収穫による品質確保を推進するとともに、貯蔵施設の整備等により出荷の平準化・長期化を支援します。
- 「ナガノパープル」は、裂果対策に取り組むとともに、「シャインマスカット」は、着色や房形を統一し高糖度な良品生産を進めます。
- ワイン用ぶどうは、ワイナリーと連携し、優良品種の導入等を支援するとともに新規参入者への支援並びに品質を高める栽培技術習得のための研修会等を開催します。

● 果樹経営基盤の安定

- 経営継続の意向調査を元に、経営の継続が困難な樹園地を一時的に管理し担い手に引き継ぐ受け皿組織の育成を進めます。
- 担い手経営体への樹園地集積や労力補完体制づくり等を進めるとともに、農業者が行う直売・加工・観光農園等の開設や他産業との連携等による6次産業化を支援します。
- 地域の条件や経営規模に応じて、施設化、多品目の組合せや他作物の導入などによる経営の複合化を推進します。
- 気象災害に備える果樹共済加入を進めます。

【果樹産地の活力向上】



■ 野 菜

夏秋期における全国への供給責任のある葉野菜産地として、持続的な産地構造と生産体制を維持するため、生産計画に沿って量と質が確保できる生産安定対策やマーケットが必要とする品目や品種・規格等に対応できる産地の供給体制強化、新たな担い手の確保・育成、施設整備を進め、全国の消費者や実需者から信頼される野菜産地づくりと農業者の経営の安定化に取り組みます。

また、ニーズの多様化等を見据え、本県の立地条件を活かしたこだわりのある栽培や個性ある品目の生産拡大に取り組む生産者グループの育成等により、新たな需要に向けた生産を進めます。

【達成指標】

項 目	平成 22 年度	平成 29 年度 (目標)	設定の考え方
販売額 20 億円以上の野菜品目数	11 品目	13 品目	主力品目の露地葉物3品(レタス・はくさい・キャベツ)以外の品目について底上げを図ることで本県野菜生産の総合力を強化する

【目指す5年後の姿】

- ◆露地野菜産地では、安定した出荷量と品質が確保され、マーケットの要望に応じています。
- ◆市場出荷に加え加工・業務用への対応が進むことで、産地の生産構造が変化し、産地を担う農業者は、栽培面積の拡大や契約取引による安定した価格等により、所得が向上しています。
- ◆果菜類、根菜類に取り組む農業者が増え、栽培品目数や栽培面積の拡大が進むとともに、多様な栽培方法や品種の導入により、産地としての出荷期間がさらに広がり、実需者からの期待が増大しています。
- ◆新たな品目や新たな用途向け生産に取り組む栽培グループが育っています。

【展開する施策】

● 信頼され責任ある野菜産地の持続的発展

- 全国屈指の夏秋期産地として、需要に応じた計画的な生産と施設整備を支援し、マーケットの期待に応える葉野菜産地を維持します。
- 高温や豪雨由来と考えられる露地野菜の作柄不安定要因の解析、改善・実証による生産安定技術の確立と優良品種の選定及びその普及により、主要品目のレタス・はくさい・キャベツ、ブロッコリー等の生産の安定化を進めます。
- 経営規模の拡大や経営力の向上に向け、農地の利用集積や省力化技術・生産コスト低減技術の普及、施設・機械の導入を支援します。
- 新たな野菜の担い手候補として、定年帰農者や新規参入者に加え、集落営農法人等の水稻を主体とする組織経営体に対し、作期や作業時間、労働力に適した品目の提案と栽培施設整備への支援や技術指導を実施します。
- 経営安定と供給責任を果たすため、効果的な価格安定対策を実施します。

● 実需者の多様なニーズ、流通の変化に対応できる新たな産地づくり

- 実需者ニーズの把握と生産者へのフィードバックを進め、契約取引による業務用や加工用など、需要の変化に対応した取組を支援します。
- キャベツやにんじんなど、加工・業務用として需要の多い品目について、契約取引による経営安定を図りつつ県内産地の育成を進めます。
- 新たな栽培技術や栽培施設等の導入支援、苗の供給体制を整備し、実需者から期待が高いトマト等の果菜類やアスパラガスの需要期での生産拡大を進めます。
- 立地条件を活かした栽培体系の導入により、青果用・加工用ホウレンソウや県内産地のリレー出荷等によるスイートコーンの生産拡大を進めます。
- 6次産業化のパートナーとなる加工業者等との結びつきや誘致を進めるとともに、加工適性の高い品種の導入や原料野菜の栽培技術の習得を支援します。

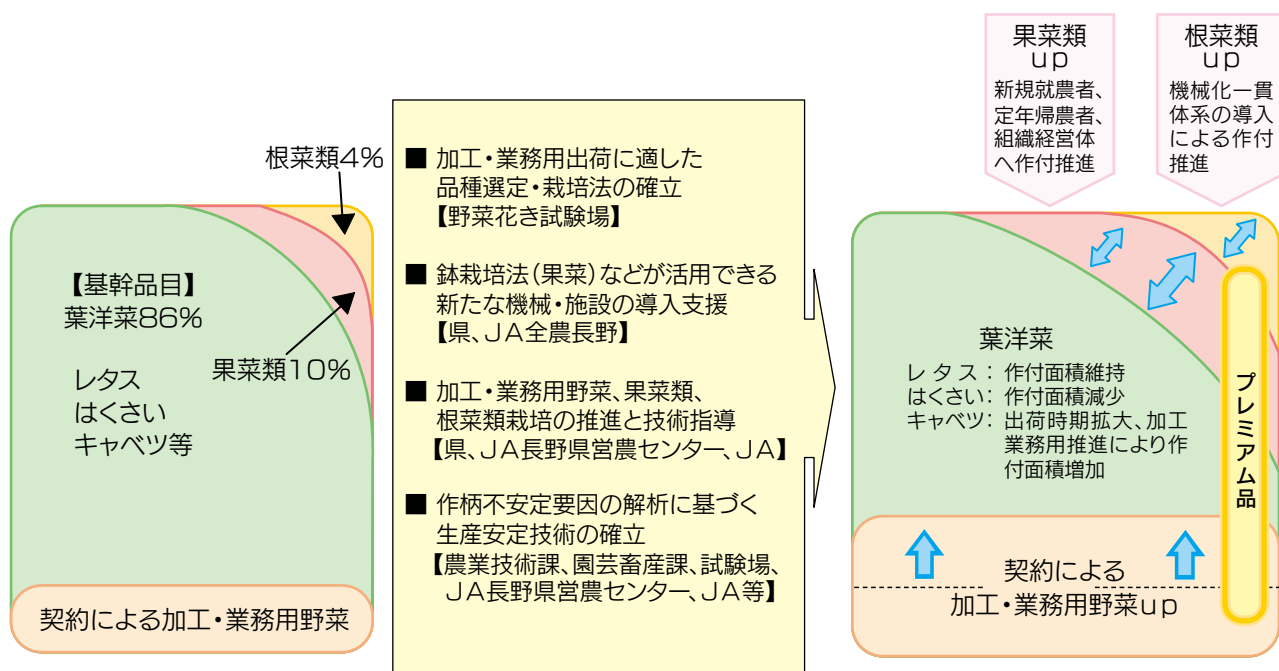


【葉野菜産地で+α（雨よけハウレンソウ等）へ取組】

● 「伝統」「健康」「こだわり」等に着目した新たな需要の開拓

- 消費形態の多様化や消費年齢階層の変化を見据え、新品目や特徴ある品質・規格等を有する“プレミアム品”や伝統野菜など、新たな需要が期待できる個性ある野菜の栽培や流通の拡大を推進します。
- “地産地消の顔”として、小規模であっても高品質で少量多品目生産を行う生産者グループの育成と地場流通の拡大を推進します。
- 国内産需要が高まっている本県の立地条件に適した、薬草の契約栽培やわさび栽培を推進します。

【需要に対応した野菜生産】



■ 花き

主要品目では、夏秋期に安定した品質・量を供給できる技術の確立、需要期に確実に出荷するための作型展開、標高差・開花調整技術を駆使した長期出荷体系の確立等により、輸入品等への競争力を高めて、実需者の要望や期待に応えます。

また、多様化する花の用途や消費の変化に機敏に応じられる用途別生産体制の導入、鮮度保持対策の推進及び花木類など立地条件を活かした品目の振興等により、県産花きの新たな需要を創出します。

加えて、花き経営の高度な技術と知識等が確実に継承かつ効果的に活用される仕組みづくりにより、経営感覚に優れた花き生産の担い手を育成します。

【達成指標】

項目	平成22年度	平成29年度 (目標)	設定の考え方
生産量全国1位の花き品目数	6品目	8品目	輸入を含めた厳しい競争下に置かれているなかで、生産量全国1位の品目を多数有する花き生産県として、実需者の信頼度を高める

【目指す5年後の姿】

- ◆夏秋切り産地としての信頼度が一層高まるとともに、彼岸などの物日への確実な対応や長期出荷体系により、実需者からの安定した需要に支えられた花き経営が営まれています。
- ◆利用形態に応じた用途別生産体制の確立と立地条件に即した品目振興及び商品力の周知により、実需者の期待が高まり、県産花きの新たな需要が生まれています。

【展開する施策】

● 全国シェア上位の品目が連なる花き生産体制の維持・拡大

- カーネーション、トルコギキョウでは、需要の高い秋期の品質を高め、商品性向上と生産量増加のための品種選定や作型・技術の確立、土づくりを推進します。
- キクでは、定植機や選花機等による省力・規模拡大と量販・加工仕向けへの対応を進めます。
- アルストロメリアでは、適品種と地温制御技術の組み合わせにより、長期出荷体系による生産拡大と省エネルギー・低コスト化を推進します。
- ダリア、ランタンキュラスなど需要の高い品目や、花木等の新規性の高い品目については、施設化の推進と立地条件に適した生産振興・作型開発を進めます。
- 各種高温対策資材やヒートポンプ、LED灯防除器等、生産性や収益性を高める新技術・資材の導入・普及と鮮度保持対策を進めます。

● 多様な実需者のニーズに応える生産体制の構築

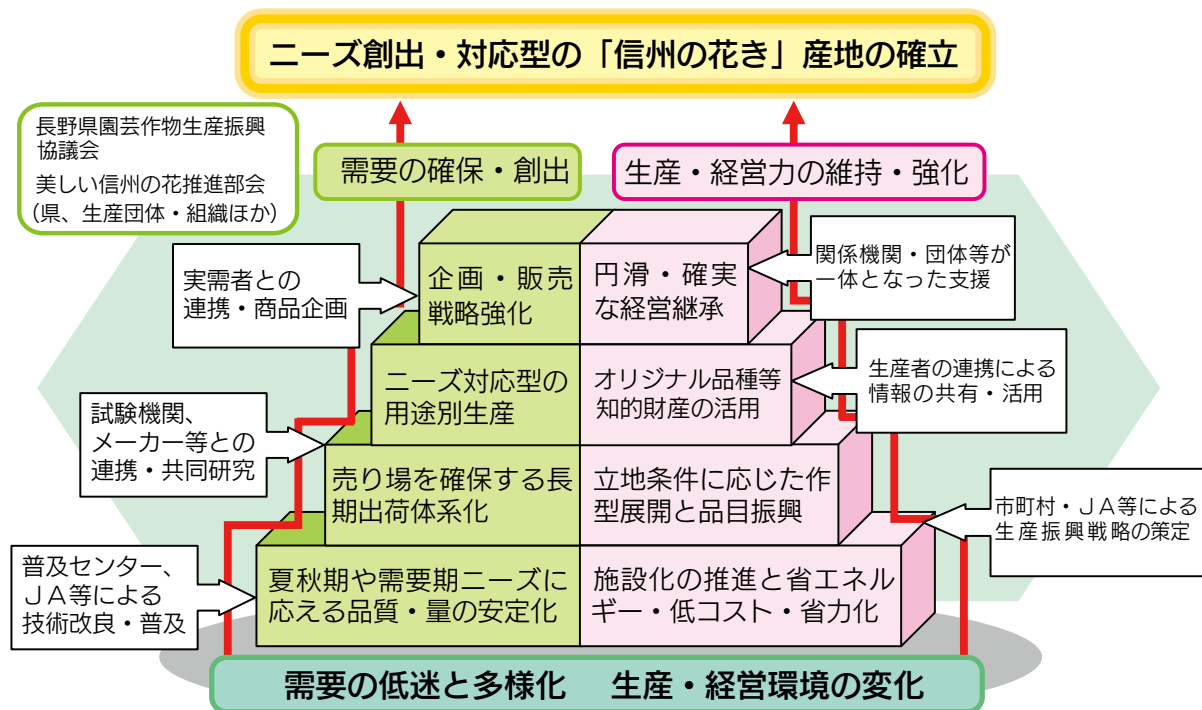
- キク、リンドウなど物日需要が高い品目では、品種や開花調整技術等を駆使した計画生産に取り組みます。
- 専門店向けの品質・日持ち性等を高めるプレミアム化、家庭用途向けの新しい規格化等、実需者との連携による商品企画や販売戦略に即した用途別の生産体制の整備や技術確立を支援します。

- 花の特性や付加価値、履歴等の情報を小売店や消費者に届ける仕組みづくり、消費拡大に向けた「花育」や情報発信等を支援します。

● **花き経営体の競争力強化**

- 輸入と競合する販売実態を踏まえて、生産並びに経営管理能力の高い経営者マインドに富む花き生産者を育成します。
- 輪ギクやカーネーション等の先進農家が持つ高度な技術・知識を次世代が確実に引き継ぐための仕組みづくりを支援します。
- 商品の付加価値や収益性・生産力を高めるため、オリジナル品種の活用等、知的財産の保護・活用を支援します。
- 花き生産者のネットワーク化により、優れた技術や知識の活用を進めます。
- 市況等が経営安定に及ぼす影響を低減するため、主要品目について効果的な価格安定対策を実施します。

【実需者ニーズへの対応と需要の創出】



【トルコギキョウ秋出荷作型の検討会】



【消費者への宣伝と購買志向の把握】

■ きのこ

大きな資本投資が行われているきのこ経営においては、「技術力」・「財務管理」・「労務管理」の一体的なマネジメントにより生産・流通コストが低減できる経営体の育成及び低コスト・省力生産技術や省エネ・節電技術の導入などを進め、生産量を確保し、全国1位の主産県を維持します。

また、“おいしい食べ方”とともに多用途性・利便性・機能性に着目した消費者視点の需要提案や情報発信などにより、きのこの新たな需要を創出し、生産力を維持・拡大する強い産地の育成を進めます。

【達成指標】

項目	平成22年度	平成29年度 (目標)	設定の考え方
生産量全国1位のきのこ品目数	4品目	4品目	えのきたけ、ぶなしめじ、エリンギ、なめこの生産量全国1位を維持する

【目指す5年後の姿】

- ◆主要4品目において、生産量全国1位を維持しています。
- ◆企業的大規模経営のコスト管理や中小規模経営での栽培技術の向上により、経営は安定し、需要に合った生産・出荷が行われています。
- ◆きのこの新たな需要の創出・拡大により、意欲ある経営体が需要に合わせた生産・流通への取組を始めています。

【展開する施策】

● きのこ経営体の経営安定対策の推進

- 企業的大規模経営におけるコスト管理手法や技術レベルの向上等について、支援チーム等による指導を実施するとともに、経営改善に必要な制度資金等の活用を推進します。
- 中小規模経営では、技術レベルの向上と財務・労務の効率的管理を一体的に支援チーム等により指導するとともに、収支が厳しい夏季生産の縮小と野菜等の導入による経営の安定化を推進します。
- きのこ経営を下支えする価格安定対策を実施します。

● 収益性の高いきのこ産地の育成

- えのきたけの高温域培養適性品種「長菌17号」など生産性の高い品種の導入・普及を進めます。
- 培養センターの規模に応じた液体種菌の利用や高生産性培地等による低コスト省力生産技術の導入を推進します。
- LED照明の導入などコスト低減につながる技術導入を推進します。

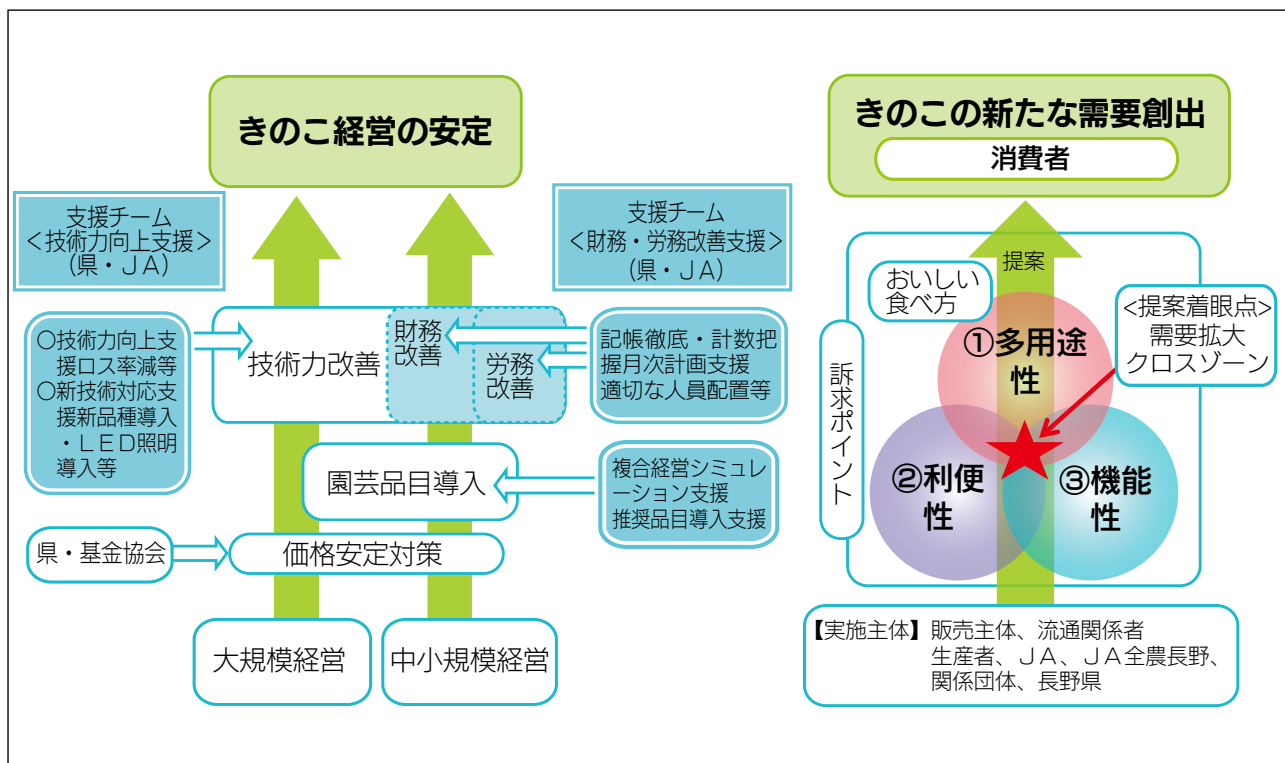
● 安全・安心・環境対策の推進

- 全生産者や集出荷施設でのGAPへの取組と異物混入防止対策を推進します。
- 使用済み培地を有効に活用するため、再利用に必要な施設整備を支援するとともに、堆肥化による農地への還元を進めます。

● 消費者視点での需要の創出・拡大対策の推進

- 「おいしい食べ方」に加え「多用途性・利便性・機能性」に着目し、消費者への需要提案を実施するとともに、商品パッケージ等を活用した「食べ方提案」など需要を創出・拡大する取組を支援します。
- 消費者を対象とした産地見学会の開催や情報発信によるPR等を進めます。

【きのこ経営体の経営安定対策、消費者視点での需要の創出・拡大対策】



【複合経営提案研修会】



【きのこ料理教室での情報発信】

■ 水産

「信州サーモン」のブランド化と新たな養殖品種「三倍体の大型イワナ」の開発・普及を進めるとともに、養殖魚の安定生産と消費拡大を推進します。

河川湖沼漁業については、遊漁者ニーズに沿った魅力ある漁場づくりと漁獲量回復に向けた取組を推進します。

【達成指標】

項目	平成22年度	平成29年度 (目標)	設定の考え方
信州サーモン生産量	220 t	375 t	水産試験場の信州サーモン稚魚供給施設規模の最大値の稚魚を供給し、現状の7割増をめざす
三倍体の大型イワナ生産量	0 t	30 t	水産試験場において種苗を開発・生産し、養殖業者へ供給を行い生産を拡大する

【目指す5年後の姿】

- ◆養殖業者の生産技術が向上し、高品質な信州サーモンが安定的に供給されることにより、実需者の評価が一段と高まっています。
- ◆三倍体の大型イワナが長野県の新たな食材として消費者から認知され、その生産量も増加しています。
- ◆地域の観光業者との連携等により、河川・湖沼に訪れる観光客や遊漁者が増加しています。

【展開する施策】

● 高品質ニーズに応える信州サーモン等の安定生産

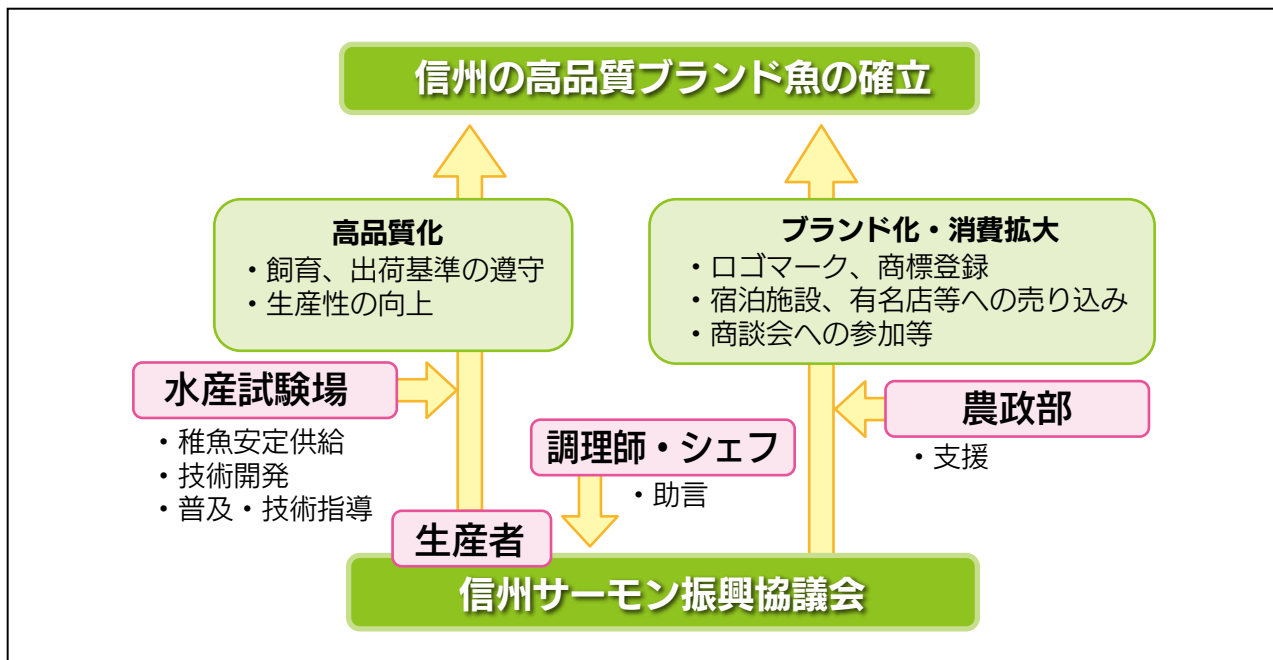
- 信州サーモンについては、信州サーモン振興協議会と連携して「信州の高品質ブランド魚」の地位を確立するため、水産試験場から稚魚を安定的に供給するとともに、出荷魚の高品質安定生産技術の開発・普及を進めます。
- 利用者である調理師やシェフの助言を生産現場にフィードバックし品質向上に活かすとともに、加工品等の開発や信州サーモン振興協議会による販路開拓などを支援します。
- 在来マス類等の安定生産のための飼育技術対策及び魚病対策等の技術的支援を実施します。
- 新たな養殖品種として三倍体の大型イワナを開発し、新たな食材として養殖業者の導入を促進するとともに、品質を高めるため安定生産技術の普及を進めます。また、販路や消費を拡大のためのPR活動等を実施します。

● 遊漁者に魅力ある漁場づくり

- 漁場を魅力ある地域資源と位置付け、冬期ニジマス釣り場の設置等の遊漁者ニーズに対応した漁場づくりや漁業協同組合と観光業者や住民とが連携した活用への取組を支援します。
- アユ漁業の不漁の一因となっている魚病対策等を強化し、釣れる漁場の復活に向け技術的支援を実施します。

- 諏訪湖については、水産資源調査を実施するとともに、漁業協同組合等が行う漁獲量等の回復に向けた取組を支援するための技術指導を実施します。
- 漁業協同組合等が行う外来魚、カワウ等による水産被害の防止対策を支援します。

【信州の高品質「信州サーモン」のブランド化】



【調理師による食味評価】



【釣れる漁場の復活】

♣ 「信州サーモン」のブランド化に向けた取組

信州サーモンは長野県水産試験場が約10年かけて開発し、平成16年から種苗の配布が開始され順調に生産量を伸ばしています。平成22年5月に、信州サーモンのPR、ブランド化、品質管理の推進と生産体制の向上を目的として生産者を中心に「信州サーモン振興協議会」が設立されました。

平成23年10月にはロゴマークを図形商標登録し、認証シールとして利用しています。また、品質統一化のための徹底した飼育管理を行い、そういった活動が認められ平成23年11月に長野県から発する優れたブランドを選考して表彰される「信州ブランドアワード大賞」を受賞しました。県としては引き続き信州サーモンが魅力ある長野県のオリジナル食材ブランドとして確固たる地位を築けるよう支援してまいります。



【信州サーモンのロゴマーク】

③ 畜産

消費者や食肉卸売業者等の多様化するニーズに対応したこだわりやおいしさを持つ畜産物の生産を拡大するとともに、生産基盤の強化を推進します。

また、農場等における衛生管理の徹底や防疫体制の強化等により、消費者が安全・安心を実感できる生産・流通体制づくりを推進します。

加えて、遊休農地の活用や良質な堆肥の地域還元など、地域と有機的なつながりを持った環境保全・資源循環型畜産を推進します。

【達成指標】

項目	平成22年度	平成29年度 (目標)	設定の考え方
信州プレミアム牛肉の認定頭数	844頭	3,700頭	優れた産肉能力をもつ繁殖雌牛と受精卵移植技術の活用等により優良肥育素牛生産を更に拡大するとともに、新規登録流通業者の認定を進めることにより流通拡大を図り、H25実績(2,988頭)の1.2倍の認定頭数をめざす

【目指す5年後の姿】

- ◆「こだわりのある畜産物」・「おいしい畜産物」・「あんしんな畜産物」と言えば信州育ちというイメージが定着し、流通業者・消費者の評価が高まり、多くの消費者が選択し購入しています。
- ◆農業者は、消費者・流通業者の高い評価により所得が向上し、やりがいが増し自信と誇りを持って生産に取り組んでいます。
- ◆良質な自給飼料の増産と活用により生産コストが低減され、農業者の経営安定が図られています。
- ◆遊休農地の畜産利用や食品循環資源利用飼料の有効活用、土づくりの基礎となる堆肥の供給などにより、畜産が環境と調和する農業のための基礎産業であることが再確認され、環境にやさしい畜産に取り組む新たな担い手が増加しています。



【北アルプスと青空を望む高ボッチ牧場(塩尻市)で若草を食む乳牛】



【子供を宿し、ゆったりと牧場で過ごす繁殖和牛】

【展開する施策】**● 消費者の求めるこだわりのある畜産物の生産と供給****■ 共通**

- 生産段階における衛生検査を定期的を実施するとともに、生産履歴の記帳と飼養衛生管理の徹底を進めます。
- 衛生的な流通を促進するとともに、生産・流通情報の開示など消費者に安心を提供する取組を推進します。
- 動物本来の生命力を活用し、動物用医薬品等に過度に頼らない、家畜の快適性に配慮した畜産物生産を推進します。
- 卓越した飼養管理技術を備えた信州食肉マイスターを認定し、その飼養管理技術を普及します。

■ 肉用牛

- 県が造成した黒毛和種雄牛「栄寿」等の精液の安定的な供給により商品価値の高い和牛の生産拡大を進めます。
- 信州プレミアム牛肉の生産基盤を強化するため、遺伝的に産肉能力の高い繁殖雌牛（スペシャル繁殖牛）の認定やスペシャル受精卵を活用した優良肥育素牛の生産拡大を進めます。
- オレイン酸等のおいしさに関連する成分を増やす飼育方法の確立と普及を進めます。
- 信州プレミアム牛肉の品質を高めるため、「飼養管理マニュアル」に基づく管理の徹底を進めます。
- 信州プレミアム牛肉認定の前提となる信州あんしん農産物生産認定農場の更なる拡大を図るとともに、生産農家や登録流通業者に対する制度のPR、情報提供や相談対応などを行います。

■ 乳用牛

- 産乳性等に優れた後継牛を確保するため、乳用牛群検定のデータに基づく優良後継牛の選定を進めるとともに、受精卵移植技術や雌雄判別精液の利用を推進します。
- 安全で高品質な生乳を生産するため、牛群ドックや乳汁の細菌検査等を実施し、乳用牛群の健康管理や乳質改善を指導します。
- 乳用雌牛による黒毛和種受精卵を活用した和子牛の生産体制の構築やほ育施設の整備を支援するとともに、ほ育技術の指導を実施します。

■ 豚

- オレイン酸等のうま味成分の多い新たな豚肉のブランドを確立するため、飼料用米の給与実証を実施します。
- 生産性の向上を図るため、高いレベルの飼養管理や衛生管理技術の習得及び人工授精技術の活用を推進します。
- バークシャー種、中ヨークシャー種等の肉質にこだわった品種の精液を供給します。

■ 鶏

- 特色のある品種やこだわりの飼料・飼育方法による生産を支援します。
- 採卵鶏については、育成率、産卵率の向上を図るため、飼養管理技術の改善等を指導します。
- 信州黄金シャモの生産を拡大するため、信州黄金シャモ振興協議会と連携し、民間種鶏場による素ビナの安定供給を拡大するとともに、県内の関係者と連携して効率的な食鳥処理について検討を進めます。
- 信州黄金シャモの品質を高めるため、「飼養管理マニュアル」に基づく飼育技術の向上を進めます。



【信州黄金シャモ】

■ 特用家畜

- 山羊やめん羊等による遊休農地の活用や個性的な畜産物生産を進めます。
- 健全な養蜂産業の振興を図るため、衛生管理の徹底と適正な飼養管理のための指導・助言を行います。

● 地域資源等を活用した生産基盤の強化

- りんごジュース、豆腐、乾麺、パンの製造副産物等、食品循環資源利用飼料を活用したこだわりのある飼料の利用を推進し、環境にやさしく、おいしい、安全・安心な畜産物生産を拡大します。
- 水田等を活用した自給飼料の増産、公共牧場の活用、遊休農地を利用した小規模移動放牧の取組を支援します。
- 遊休畜舎等の未利用畜産経営資源の情報収集と発信により、新規就農希望者や企業等の新たな担い手の参入を促進します。
- 畜産農家と食品加工業者との連携強化や畜産農家による加工品製造販売等6次産業化を支援します。
- 地球温暖化に対応するため、畜舎等への地下水散布や夏期放牧等の効果的な暑熱対策の実施を促進します。

● 家畜伝染病等予防のための防疫体制強化

- 鳥インフルエンザや口蹄疫等家畜伝染病の県内への侵入を防止するため、定期的な抗体検査等監視体制の強化を図るとともに、立入検査等により衛生管理状況の確認と指導を行います。
- 県内で家畜伝染病が発生した場合に、より迅速な初動防疫を実施するため、畜産農家データベースを随時更新するとともに、定期的に防疫演習を実施します。
- 伝染病の侵入防止と健康な家畜の飼育による生産性の向上を図るため、飼養衛生管理基準の遵守を指導します。

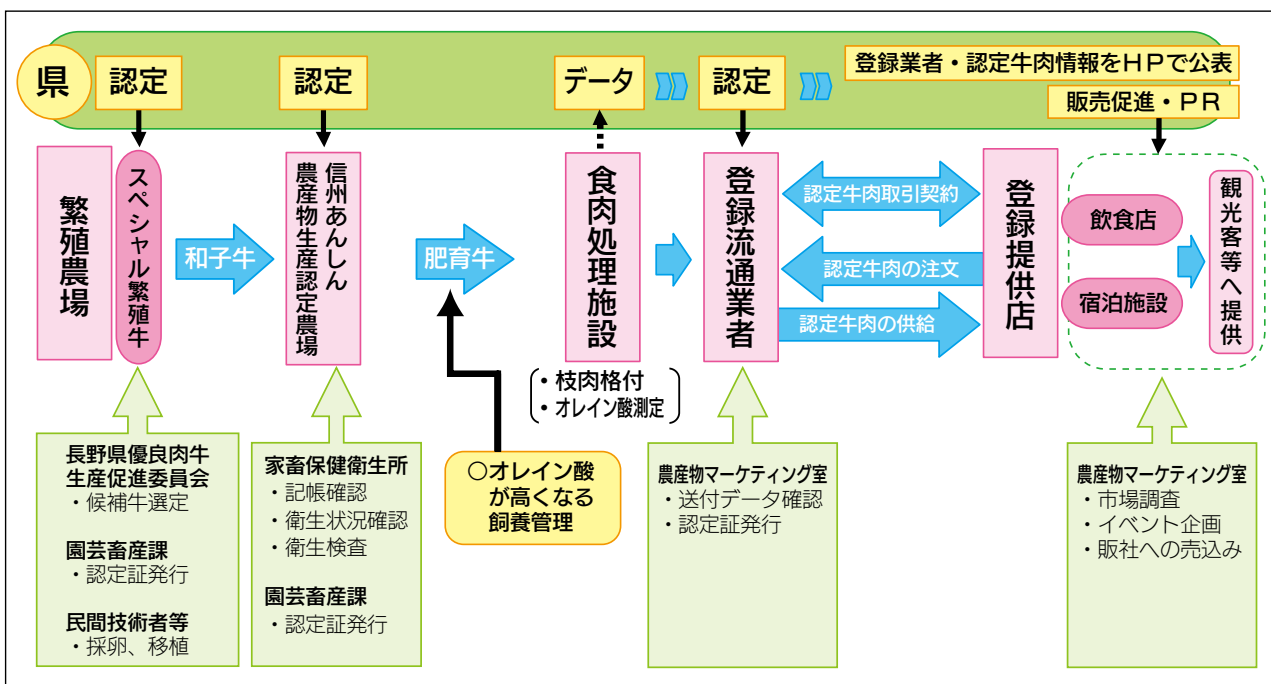


【殺処分した家畜を処分するための埋却溝掘削訓練】

● 地域とのつながりを持ち、信州の自然・環境に適した畜産の推進

- 地域の景観や環境等に配慮するため、臭気対策や畜舎の美化に対する取組を推進します。
- 畜産ヘルパー制度の普及推進による労働条件の向上や、コントラクターによる自給飼料生産の外部委託など、地域住民の雇用等による地域一体となった生産体制の構築を支援します。
- 家畜排せつ物の適正管理を徹底するとともに、畜産農家と耕種農家との連携を強化するため、堆肥生産情報の提供を推進します。

【信州プレミアム牛肉の生産・販売の拡大】



♣ 信州プレミアム牛肉でブランド化

「信州あんしん農産物」生産認定農場の認定が進み、そこから生産された和牛で肉質とオレイン酸の基準を満たした信州プレミアム牛肉の生産が増えてきています。

和牛の関西市場への出荷も多いことから、生産者等からの要望を受け関西市場での認定も開始しました。

肥育農家が手塩にかけた高品質牛がブランド化されて信州産和牛の名声が高まるとともに、県中央家畜市場の活性化や、繁殖農家、肥育農家等の畜産基盤の強化になるよう期待されています。



【専用の機器でオレイン酸を測定】